

エジンバラ大学研修事後報告書

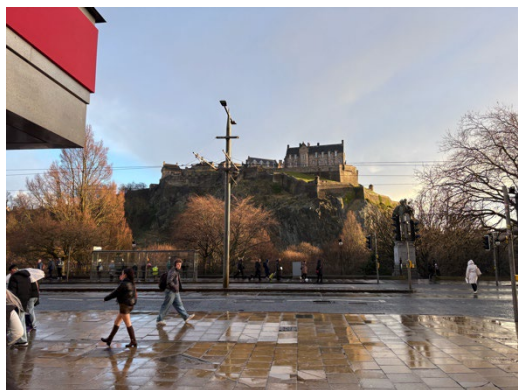
金沢大学人間社会学域法学類 2 年

はじめに

本研修を受講したのは、自国のことを深く考えるには、他国を通して自国を観察することが必要であり、次年度からゼミに参加して自国の法制度や法的問題点・課題について考えるためには、その前に一度他国に身を置き、自国を見つめなおす必要があると思ったからだ。実際に日本における実定法研究では法的問題点を解決するための新たな理論を考察・説明するにあたり、



り、日本と外国とのアプローチや問題意識の差異を観察して、どのようなアプローチや理論を日本に移入できるかといったような比較法研究の手法がとられることが多く、比較法研究の手法をとることで社会をよりよくする研究として、研究の社会的価値を高めるのだと思う。だからこそ、1・2年生の内に3週間という短期間のため、留学よりも手軽に外国の大学で、外国法について日本法に触れながら学べる本研修に参加する意義は大いにあると思う。



事前研修について

本研修に参加する者は、東川先生の基礎演習と事前研修を受講する必要がある。基礎演習では、金沢大学の留学生とのグループ活動と東川先生による講義がなされ、日本の法制度やそれにかかわる社会的事象について英語で説明する能力を向上することができるだろう。事前研修では、

とある事柄について英語で即座に説明できるように練習を行い、また、ペアやグループごとに日本の法制度に関わるテーマについてのプレゼンテーションを行うといった活動がなされ、英語技能を向上することができるだろう。基礎演習と事前研修は受講者の英語能力の向上の助けとなるが、英語能力を向上する上で重要なのは、毎日英語と触れるといった英語能力を向上させるという意欲であると思う。そのため、次年度以降本研修に参加する人には高い意欲をもって英語能力の向上に励むことを勧める。

エジンバラ大学での授業について

平日の9時から13時までの間に2コマの講義がなされ、うち1コマは英語技能について

の講義であり、もう1コマは英国法についての講義である。また、昼食後の活動は自由であり、チューターによる催しに参加したり、街中を散策したり、発表や講義のための準備のための時間を過ごすこととなると思う。英語技能についての講義では、法律英語に限らず、英語を話す練習を行われ、例えばプレゼンテーションで注意すべきことなどを皆で話し合いながら考えるといった活動がなされた。英国法についての講義では、イギリスの法律英語について調べて説明する活動が行われ、例えばイギリスの裁判所の階層やその種類、それぞれの役割について、ジグソー法教育手法によって学習した。



また講義の時間において、スコットランド議会を見学し、また、High Court の裁判を傍聴した。スコットランド議会の見学について、同議会では主に火曜、水曜、木曜に議会が開かれ、委員会等で審議されるということで、日本のような常会が主に1月から6月まで開

かれる形態と大きく異なり、そのほかにも議決方法などに差異が見られ、興味深かった。High Court の裁判傍聴について、Court 2 では殺人事件の裁判がなされ、Court 1 では性犯罪の裁判がなされていた。両法廷共に思いのほかこじんまりとしており、jury の人数の多さには驚くところがあった。

Week 2 と Week 3 の大きな活動として、ポスターカンファレンスとプレゼンテーションがあり、Week 2 と Week 3 の昼食後の自由時間はそれらの準備の時間に費やされると思う。

Week 2 のポスター発表はペア活動であり、特定の英国の判例をパワーポイント2枚にまとめ、それをポスター化したものを先生方に対して、一人で発表することとなるが、準備を



しっかり行えば難なく乗り越えられると思うので、次年度以降本研修に参加する人にはとにかく自信をもって発表することを勧める。ちなみに筆者のペアでは付録の形で、日本の判例もポスターに記載し、法制度の違いから起きる法的問題の発生の差異についても触れた。Week 3 のプレゼンも概ねペア活動であり、とある法的問題点について取り上げ、それについてホストファミリーや先生方に対してアンケート調査や聞き取り調査を行い、その結果を用いて、プレゼンを行うことになる。調査結果の用い方はペアごとに自由であり、問題点を浮き彫りにするために用いたり、日英比較のために用いたりされていたが、筆者のペアでは、どのような法律を制定すべきか



について発表した。



自由時間の過ごし方について

業後・昼食後の自由時間については、エジンバラ城へ行ったり、カフェでお茶したり、エジンバラ大学の Holyrood Campus から40分ほどで登ばれる Arthur's Seat という山に登ったりなどエジンバラを散策した。エジンバラは比較的小さな都市であり、支給されるカードを用いれば無料で利用できるバスと Tram という路面電車を利用すれば、エジンバラであればどこでも散策できる。Week 1 の週末にロンドンへ旅行に行ったため、その旅程について紹介したいと思う。Edinburg Bus Station を金曜22時35分発の夜行バスに乗車し（夜行バスは

指定席でとったが席に番号が振られておらず、危うく座席を確保できない状況になりそうだったため、指定席をとるために余分にお金を支払ったことを後悔している...）、Victoria Coach Station に土曜7時半に着き、その後バッキンガム宮殿近辺を散策し、電車でロンドン橋とタワーブリッジへ向かい、その近辺にあった Weather Spoon で早めの昼食をとり（12時まで Breakfast メニューを頼むことができ、マフィンとコーヒーのセットが約4ポンドと割安であった）、大英博物館へバスで向かい、4時間ほど大英博物館に滞在した後、イングランド対スコットランドのラグビーの試合を見るために、Bar へ行ってラグビーの試合を観戦した（Guinness と Peroni



という各7.5ポンドのビールを飲んだ）。その後ホテルへ向かった（ホテルを向かう道中急に尿意を催しトイレを探すのが大変であった...）。日曜9時半にホテルを出発し、電車でグリニッジ展望台へ向かい散策し、その後電車で Big Ben 付近へ向かい散策し、その後ハリーポッターの作中に出てくる9と4分の3番線を見る（隣にハリーポッターの土産物店もある）ために、電車で King's Cross Station へ向かい、帰路につくこととなる。帰りは電車で King's Cross Station の隣駅である Euston Station 発の電車で Lancaster station へ行き、そこで電車を乗り換え、Edinburgh Waverley Station に着いた（ちなみに

イギリスの特急電車は指定席でとっても誰かが 2/2 で先に座っているのでどいてもらった...)。このような日程で、ロンドンに行ったが、夜行バスは予想以上に快適ではなく、飛行機か夜行列車の方がよいと思われる。Week 2 の土曜日にはグラスゴーを観光し、グラスゴー大学近くにある Paesano Pizza West end というピザ屋が 12 ポンド程と割安でおいしかったため、グラスゴーを観光する際にグラスゴー大学近辺で昼食に困ったら、寄ることをお勧めする。

おわりに

もちろん流暢な英語であれば会話はスムーズに進むが、たとえ拙い英語であっても、現地の人々は真剣に話を聞き、理解しようとしてくれる。そのため、英語力に自信がなくとも、困ったことや質問があれば積極的に話しかけることが重要だと実感した。エジンバラで通

用する法律はイングランドの法律とスコットランドの法律とがあり、どの法律が適用されるのかについて複雑であるが、このような日本との法制度の違いを含めて、エジンバラで法律を学べたことは非常に有意義であったし、イングランド法とスコットランド法、イギリス法と日本法の間で、その内容に差異があり、その比較は興味深い体験であった。



謝辞

今回のエジンバラ大学研修に際し、多大なるご支援を賜りました末延財団ならびに、ご指導・ご助言をいただいた先生方に、貴重な経験をさせていただいたことを心より感謝申し上げます。



1, はじめに

私は、大学入学前から金沢大学法学類にエジンバラ研修のプログラムがあることを知っていました。私は、英国の街並みやファッション、文化に興味があり、他国との交流をしたいという気持ちが強くあったため、希望しました。

大学入学当初は、1 年生で参加しようと思っていたのですが、まだ法律の知識が浅く、それを多言語で学ぶことに不安があったため、ある程度の専門科目を学んだ 2 年生の春休みに参加することを決心しました。

2, 事前学習

このプログラムに参加するにあたっては、やるべきことがいくつかあります。まず、IELTS 5.0 を取得することです。IELTS は、TOEIC と異なり、より実践的で難易度が高く感じました。私は、十分にテスト対策ができていない状態で本番を迎えてしまい、手ごたえを感じませんでしたが、なんとか 5.0 を取得することができました。しっかり対策をできなかった私から言えることとしては、まずは、テキストを購入し、問題形式をつかむこと、面接があるので、読み書きだけではなく、スピーキングの対策を十分に行うことが基本的に大切なことかなと思います。

また、渡航前に東川先生による基礎演習を履修します。私にとって、この授業は、とても実践的で有意義な時間であったため、渡航後の授業でとても役に立ちました。

3, エジンバラ大学での授業

エジンバラ大学での授業は当たり前ですが、英語です。先生やメンターとは話すときはもちろん、学生同士での交流も基本的には英語で行います。私は、英語が得意でなく、自信がないので、文法がぐちゃぐちゃになってしまったり、何を言えばいいのかわからなくて止まってしまうたり、拙い英語でしたが、みんなとっても優しいので一生懸命話を聞いてくださり、とても励みになりました。また、先ほども述べたように、東川先生の基礎演習の授業で学んだ内容がとても生きてくるので、渡航前にもう一度復習をしたり、資料を持って渡航したりすることをお勧めします。

また、授業内での主な活動としては、英語によるプレゼンです。ポスタープレゼンと最終プ

レゼンの計 2 回プレゼンを行います。プレゼンの内容は難しいものばかりで、準備が大変で、当日はとても緊張しましたが、自分の知識を深めるいい機会になりました。私がプレゼンで一番恐れていたことは、発表ではなく、質疑応答でした。アドリブなので、一番英語力が試されるのでとても心配していました。

授業やプレゼンは当たり前に大変です。しかし、改めて日本の法律について学び直すきっかけになったし、スコットランドの法律と比べることで学びを深めることができました。すべてが終わった時には、達成感で気持ちがいっぱいになりました。

3, 街並みや文化

私は、映画や服が好きで、昔から外国、特に英国の街並みやファッションに憧れがありました。そんな私にとってエジンバラの街並みは、ドンピシャでとっても興奮しました。初日から、写真を撮りすぎて、すぐにフォルダがパンパンになってしまいました。まるで、ハリーポッターのような世界観で、どこを見ても飽きないし、どこを写真撮っても絵になります。最高です。エジンバラは金沢と似ていて雨や曇りが多い地域ですが、傘をさすのが恥ずかしくなるくらい誰も傘をさしていないことに驚きました。

私は、ceilidh というスコットランドの伝統的なダンスパーティーに参加しました。とてもカジュアルなダンスパーティーで、ドレスコードもなく皆さん動きやすい服を着ていました。あまり運動をしない私にとっていい運動になったし、みんなで音楽に乗りながら体を動かすことはとても楽しいと実感しました。



4, ホームステイ先



私は、娘さんたちが家を出ていて、ワンちゃん 1 匹とねこちゃん 2 匹と暮らす女性の家でホームステイをしました。私のホストマザーは、作家として活動していて、基本的に家で働いている方でした。ホストマザーが書いた本を英語の勉強として読ませてくれたり、とても内容の難しい話をするときには、簡単な英語に言い換えて話してくれたりするなど、とても積極的に私の英語の

学習を手伝ってくださる優しくて、熱心な方でした。

また、私のホストマザーは、ベジタリアンで、お肉は食べない方でしたが、調理をすることができる方だったので、私のためにお肉を使った料理をふるまってくださいました。

とても料理が大好きだそうで、毎食デザートまで準備してくださるのですが、全部おいしくて、私は、レストランで食べる料理よりもおいしく感じました。



5, 余暇の過ごし方



週末や、放課後はフリーなので友達とショッピングや観光をしました。特に週末は、土日の丸々二日間自由なので、エジンバラ城に行ったり、ちょっと良いレストランで食事をしたりして、とても充実していました。

私は、2 週目の土日に、飛行機でロンドンに行きました。ロンドンでは、バッキンガム宮殿や、大英博物館にナショナルギャラリー、ビッグベンなど主要な箇所を一日で回ることができました。ロンドンはエジンバラよりも都会で、また違った景色を楽しむことができます。弾丸だったので、また時間とお金に余裕ができたなら行ってみたいと思いました。



6, 最後に

私はこの研修に参加して本当によかったなと心から実感しています。実際に海外に行って、自分の英語力の乏しさに気づき、落ち込むこともありましたが、これを糧に帰国後英語の勉強を頑張ろうと思えました。また、帰国後「これって英語でなんて言うんだろう」と思って調べたり考えたりする時間が増えたように感じました。最後の授業でエジンバラ大学の先生が、「母国語でない言語を勉強して、それを用いてプレゼンをやり遂げたことは本当にすごいことだから誇りをもって」と言ってくださったことがとても自信につながりました。一生懸命わたしたちに寄り添ってくださった先生方やメンター、ホストマザーには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。エジンバラやでそこで出会った人たち全員大好きです！また行きたい！

また、わたしの気持ちを後押ししてくれ、このような機会を与えてくれた家族にも感謝しかありません。本当にありがとうございます。

そして最後に、奨学金の援助をしてくださった末延財団の皆様ありがとうございました。このご厚意を裏切らぬように、将来のために努めてまいります。

1. はじめに

私がこの留学プログラムを知ったのは高校 3 年時法学類のオープンキャンパスに参加したときである。私は昔から名探偵コナンやシャーロックホームズが好きであったため、その舞台になった土地であるイギリスに対する憧れがあり、高校生の時からこのプログラムに参加したいと考えていた。特にシャーロックホームズの作者であるコナンドイルがエジンバラ大学出身であると知った時は本当に驚いた。また大学の友人の多くが留学を経験しており、憧れを抱いたというのも理由の 1 つである。私は英語も法律の勉強も特段得意というわけではなく、かなり不純な動機でこのプログラムに参加してしまったが、参加して本当に良かったと思っている。

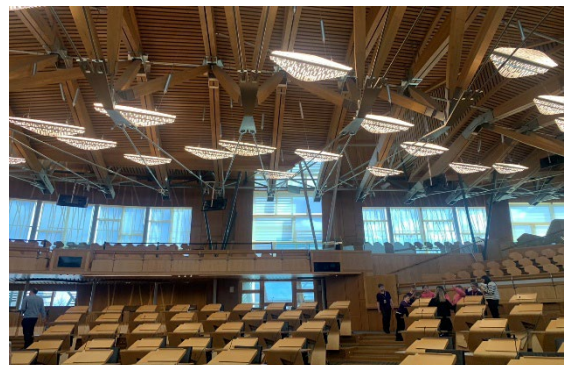
渡航前は IELTS の対策や、事前研修などを通して英語力の向上に努めた。IELTS はリスニングやリーディングだけでなくライティングやスピーキングの能力も必要になるため、対策が大変だった。また事前研修では日本の正月を英語で紹介する動画を制作したり、グループで日本の法制度について英語でプレゼンをしたりした。私は特にスピーキングが苦手であったため、簡単なフレーズや定型文などをあらかじめ確認しておくことで少し自信をもって話すことが出来た。

2. エジンバラ大学での授業

授業は毎日 9:00~13:00 で、日によっては午後にも授業があり、みんなで美術館へ行ったりプレゼンの準備をしたりすることがあった。ホストファミリーの家から大学までバスと徒歩で片道 1 時間以上かけて通学していたため、早起きが苦手な私にとっては少しきつかった。

授業ではスコットランドにおける法制度や、日本と比較した場合の共通点や相違点などについて具体的に学んだ。法律専門用語やスコットランドの法制度を英語で学ぶことは難しかったが、互いに教え合いや話し合いをした。また、授業内で実際にスコットランドの議会や裁判所を訪れる機会があり、自分の目で見ることによって理解を深めることが出来た。(写真はスコットランド議会)

また、ポスターセッションや最終プレゼンを通して自分の知識や学びに対して自信をつけることができた。当初は知らない人へインタビューし、その結果をもとにした 1 人 10 分の英語でのプレゼンというのは不安が大きかったが、現地や日本での授業の成果を発揮し無事に終わることが出来た。日本での事前研修では、グループでのプレゼンであるにも関わらずあまりグループ内で話し合えていないのではないかと指摘されたことがあった。しかし現地ではその反省を生かし、グループで何度も話し合いや打ち合わせをすることで一体感のあるプレゼンを行うことが出来た。



3.ホームステイ

私は今回のプログラムに参加する前、ホームステイが最も心配であった。自分の話す英語は伝わるのか、ホストファミリーの話すことは理解できるのかどうか、かなり不安であった。しかしながら、そのような心配は不要であった。ホストファミリーはとても親切で、困ったことがあると私が分かるまで簡単な英語を使って話してくれた。おすすめの観光地を教えてくれたり、ロンドンに行くと話した時は交通手段を一緒になって考えてくれたりした。そのような中でも私が特に困ったことは家の暖房で、日本とは仕様が異なり、また夜は使用しないことになっていた。初日こそ耐えられていたものの、寒すぎて眠ることが出来ない日もあった。そこでホストファミリーに相談したところ私のために電気毛布を用意してくれ、その日以降快適に眠ることが出来た。

最初はホームステイが本当に不安だったが、温かいホストファミリーに恵まれ、楽しい3週間を過ごすことが出来た。

4.観光

私は主に平日の授業後にエジンバラを観光し、土日にグラスゴーやロンドンを訪れた。ここでは私が訪れた場所を①エジンバラ、②グラスゴー、③ロンドンの順に紹介する。また、その後④として現地で食べたものについて紹介する。

私は始めに述べたように、自分の好きな名探偵コナンやシャーロックホームズに関連した施設を訪れたりハリーポッター関連の施設に行ったりした。スコットランドもロンドンも比較的治安は良く、明るい時間であれば安全に観光することが可能であると感じた。美術館や博物館は無料の所もあり、比較的安価に観光できることもある。しかしながら予約をしないとスムーズに入れないことが多いため、下調べと事前の予約が重要であった。またイギリスは日本以上にキャッシュレス社会であり、ほとんどクレジットカードで支払いをすることが出来た。留学していた3週間の間、現金のみだと言われたのは1度しかなかった。公共交通機関に乗る際、クレジットカードのタッチ決済だけで完結し切符を買う必要がなかったことがとても便利な仕組みであると思った。

イギリスのご飯は美味しくないと言われることがあるが私はそうは思わなかった。フィッシュアンドチップスやイングリッシュブレックファーストなど日本人でもかなり食べやすいと感じた。

① エジンバラ（スコットランドの首都）

左からエジンバラ城、the elephant house(J.K.ローリングが賢者の石を執筆したカフェ)、シャーロックホームズ像（コナンドイル生誕の地）である。



② グラスゴー（スコットランド最大の都市）

左2つがグラスゴー大学、右がケルビングローブ博物館である。



③ ロンドン（イギリスおよびイングランドの首都）

上の段は左2枚が大英博物館で右2枚がシャーロックホームズ博物館である。下の段は左2枚がビックベンで右はナショナルギャラリーで見たゴッホのひまわりである。



④ 現地での食事

エジンバラではフィッシュアンドチップスやアフタヌーンティーを体験した。また、スコッチウイスキーにもチャレンジした。ロンドンではイングリッシュブレックファーストを食べた。



5.終わりに

私はこれを読んでいる方にこのプログラムへの参加をお勧めする。私にとってこのプログラムは本当に有意義なものであった。

英語や金銭面について心配もあるかもしれない。しかしながら、英語については事前研修を通して学習できる機会があり、また現地では伝えようと努力すれば大抵のことは伝えることが出来た。そして金銭面については、奨学金にかなり助けられた。授業料や航空券以外にも準備や観光等でお金が必要であったり、円安の問題もあったりしたため、奨学金がなかったら留学は厳しかったかもしれない。

もしこれらの理由で今留学を諦めているのであれば、諦めずに是非参加してほしい。

エジンバラ研修レポート

なぜエジンバラ研修に参加したか

今回のエジンバラ研修に参加した理由は3つあります。1つ目は英語力の向上、2つ目は外国文化に直接触れること、3つ目は末延財団からの助成です。英語力向上に関しては、もともと長期留学をしたいという思いがありましたが、語学要件が高いため、条件が比較的緩やかなエジンバラ研修を利用してスピーキング能力を向上させたいと考えました。外国文化に触れるという点では、自分の価値観や考え方が外国でどのように受け止められるのかを知り、一定期間外国に住むことで異文化を実感し、視野を広げたいという狙いがありました。また現実的な話にはなりますが、円安の影響でエジンバラ研修で必要な費用が非常に高い中、今回のエジンバラ研修は末延財団からの30万円の助成があり、研修に参加しようという決意を後押ししてくれました。

学んだこと

エジンバラ大学での授業やプレゼンテーションなど、多くの経験が得られましたが、特に印象に残ったのはスコットランド議会と裁判所の見学です。

スコットランド議会の見学では、日本とは異なる議会の仕組みや歴史を学びました。特に興味深かったのは、営業日やCOVID-19パンデミック時の運営方法です。日本の国会は通常月曜日から金曜日まで開かれますが、スコットランド議会は火曜日から木曜日まで本会議を開催し、月曜日と金曜日は委員会活動や政策研究、選挙区での活動に充てられます。この制度は議員が有権者と直接関わる機会を増やし、より深い議論を可能にすると感じました。

また、COVID-19の対応においても大きな違いがありました。日本では物理的な出席が原則とされ、オンライン会議の導入は一部の地方自治体に限られています。一方、スコットランド議会ではハイブリッドモデルが採用され、オンラインでの討論や投票が実施されました。この柔軟な対応は、非常時でも議会の運営を継続するために非常に効果的だったと感じました。

裁判所の見学も貴重な経験でした。日本では裁判所に足を運んだことがなかったため、海外で実際の裁判を傍聴できるとは思ってもいませんでした。英語での裁判内容を理解するのは難しかったものの、左側の法廷では殺人事件、右側の法廷では強姦事件が審理されていることは分かりました。

特に印象的だったのは陪審員制度の違いです。スコットランドでは15人の陪審員が無作為に選ばれるのに対し、日本では6人の裁判員が選ばれます。さらに、日本では重大な判決を下す際には裁判官の同意が必要ですが、スコットランドでは単純多数決が採用されています。加えて、日本では裁判員が裁判官と同じ席に座るのに対し、スコ

ットランドでは陪審員が別席に座るため、傍聴者のようにも見えました。こうした違いを目の当たりにし、法制度の多様性を実感しました。

エジンバラでの暮らし

ホームステイも私にとって初めての経験でした。ホストファミリーは非常に親切で、学校への行き方や安全な場所・危険な場所などを丁寧に教えてくれました。授業では自分の意見を発表するのが難しいこともありましたが、ホストファミリーとの会話は英語力向上に不可欠でした。私は毎日最低1時間半はファミリーと話すことを自分に課し、それを実行しました。その結果、最後の週には会話の受け答えや会話を続ける力が向上していると実感しました。

また、公共交通機関を利用する中で、日本とは異なる文化の違いも感じました。電車やバスでは座席が埋まっていることが多く、席を譲ってもらうために積極的に話しかける必要がありました。さらに、電車内での携帯電話の使用や大声での談笑、ペット同伴可能な点も日本とは大きく異なり、最初は戸惑うこともありましたが、次第に慣れていきました。

まとめ

今回のエジンバラ研修を通じて、英語力の向上だけでなく、異文化理解や新たな視点を得ることができました。スコットランド議会や裁判所での見学、ホストファミリーとの交流など、多くの経験を通して自分自身を成長させることができました。この貴重な経験を今後の学びや将来の選択に活かしていきたいと思います。



エジンバラ大学法律英語研修事後報告書

人間社会学域法学類 1 年

1, はじめに

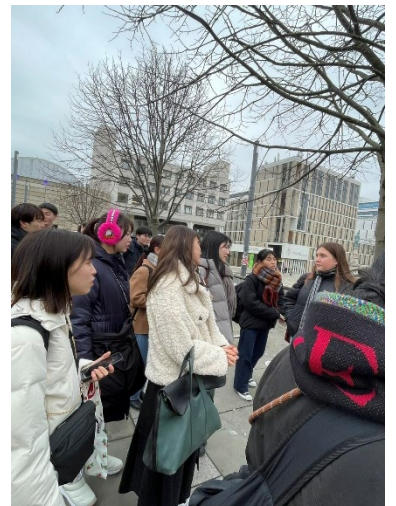
私が今回この留学に参加した理由は英語力の向上と、自分を変えたかったからである。わたしは高校生の時から英語に対して苦手意識があった。しかし大学受験で英語の勉強をしていたのに加え、大学でも英語の授業があったため、自分の英語力を確かめ、向上させるのにはいい機会だと思った。特にスピーキングが苦手であったが、このプログラムはホームステイであり、英語を話すチャンスが多く、とてもあっていると思った。また、私は自分に対してネガティブであるため、海外の文化や人々と触れ合い、少しでも違う考え方を得られたらと思い、参加した。

2, 大学生活

今回はエジンバラ大学で3週間大学生活を送った。午前中に110分の授業を2コマ行い、午後からは90分の授業を1コマ行うのが、基本的な時間割だった。午前中の授業では、主にイギリスの法律についてとプレゼンなどで使える英語のフレーズなどを学び、午後からはプレゼンやポスターの準備をするか、メンターの方と一緒にエジンバラの観光スポットを見学に行くことが多かった。1日目の午後からはバスツアーがあり、2日目はエジンバラ市街を歩くなど、授業の一環として観光することができたのでとてもよかった。さらにエジンバラ在住のメンターの方と一緒に行動するので安心であり、一つ一つの場所を丁寧に説明してくれ、わからないことや質問をすぐ聞けるので自分たちで観光するよりもとても充実したと思う。

午前中の授業ではイギリスの法律について学んだ。ただ受け身で授業をするのではなく、

日本の法律との比較について自分で考えたり、周りの人と話したりなどしたため、記憶に残りやすかった。先生もできるだけ簡単な英語を使ってくれたり、わからない単語は言い換えてくれたりしてくださり、とても親切だった。授業ではグループワークが多く、自分の考えを英語で伝えなければならなかったため、スピーキング能力が向上した。英語が苦手であったため、文法があっているかととても心配になりながら話していたが、文法が多少おかしくても、先生やメンターの方は理解しようと真剣に聞いてくれるため、自分から話しやすい空間だった。私は1年生で参加したため、周りの人たちより法律の知識が少ないことが少し不安であった。しかし先輩たちや先生方が助けてくれることが多く、あま



り不自由は感じなかった。授業内でスコットランドの議会や裁判所などにも行くことができ、実際に働いている人の温度感など行ってみないと感じられないことも知れてとても充実した。

3, ホームステイ

私はホームステイが留学前、一番心配だった。ホストファミリーと気が合わなかったり、怖い人だったらどうしようなど心配事だらけだったが、実際とっても優しい人で、毎日家に帰るのが楽しみだった。私のホストファミリーは、私以外にも留学生を受け入れており、私はホストマザーとサウジアラビアからの留学生と三人で生活した。特に厳しい家のルールなどではなく、夜静かにすること以外は何も言われなかった。洗濯は自分がやりたいときに申告する感じだった。ホストマザーは料理をすることが趣味で、毎晩夜ご飯が楽しみだった。イギリスのご飯は日本人の口に合わないと言われるが、私はおいしく食べることができた。小麦や芋中心の食生活だった。夜ご飯中は今日学校でしたことなどを話した。ご飯後は3人でネットフリックスにある海外の映画を鑑賞することが多かった。



4, 観光

大学の授業が早く終わることが多かったので、終わった後はほぼ毎日観光した。私がエジンバラの観光スポットの中で一番好きだったのは、セント・ジャイルズ大聖堂である。建物自体は小さいが、このステンドグラスがとても好きだった。ホストマザーは長年エジンバラに住んでいるので、エジンバラ観光の穴場スポットなどを教えてくれた。また、そこまでの行き方なども詳しく教えてくれた。また、私は2週目の週末にロンドンに1泊2日で観光へ行った。ロンドンはエジンバラとは少し違った町並みで、ロンドンもとてもよかった。私は先輩と一緒に

に3人で行ったが、エジンバラについてからロンドンへ行く計画を立てたため、ホテルや飛行機代が、高くついた。ロンドンへ行くなら日本にいるときから早めに予約などを済ませておくべきだと思った。1泊2日だったが、2日目はほぼ移動だったため、観光できたのは1日だけだったが、1日でロンドンの有名な観光名所は回りきれた。しかし、お土産などをゆっくり見たかったら1日では足りなかったと思う。ビッグベンはロンドンへ行ったら絶対行くべきだと思う。私たちは夜に行ったが、人がとても多く、前に進むのが大変だった。

5, 終わりに

私はこの留学を通して、外国の文化を知るとともに、自分の英語力の向上もすることができた。はじめは緊張で全然話せなかったが、慣れてきたら自分から英語で話せるようになった。エジンバラの人たちは親切な人ばかりで、困っていたら、親身になって助けてくれるので、留学にはとても最適だと思う。私は今回のこの留学が、初めての留学だった。初めての留学のため、日本から遠く離れたイギリスを選ぶのは距離も遠く、金額も高いためとても迷っていたが、今年は未延財団からの補助もあったため、経済的なハードルが下がり参加でき、様々な経験をすることができた。

エジンバラ大学法律英語研修報告書

人間社会学域法学類 1年

私は2025年2月17日から3月9日にスコットランドの首都であるエジンバラ、エジンバラ大学にて行われた、法律英語研修に参加しました。この研修ではイギリスの法律に関する専門知識を学びながら、英語を使つてのコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルを習得することができました。私がこの研修に参加しようと思った動機は、大学4年間のなかで一度は留学に行こうと思っていたこと、自分を成長させたいと考えたことの二つです。これまで私は一度も海外に行ったことがなく、これが初めての渡航でした。最初はとてつもなく不安でしたが、実際に行ってみると、とても楽しく3週間を過ごすことができました。下記に、事前準備についてと、留學生活の内容について報告させていただきます。

事前準備について

研修の事前準備には、IELTS5.0の取得、基礎演習の履修、事前研修の3つが必要でした。IELTSは夏休みごろから勉強を始め、受験生時代の英語の知識や単語をもとに5.0を取得することができました。基礎演習においては、金大に留学に来ている留學生の人たちと日本の司法制度について学び、ディスカッションを行いました。そのディスカッションを通して、留學生の出身国の法制度についても理解することができました。事前研修では、日本の法制度の好きなテーマを選び、それをプレゼンするというものでした。当時はプレゼンスキルが拙く、うまく発表ができませんでしたが、研修で向上させようと意欲向上につながりました。

留學生活について

研修中は午前中にスコットランドの法制度、英語スキルの授業があり、午後は自由行動か、メンターの人と市内観光に行くかという日程でした。授業では法制度を学ぶとともに、2週目に行われるポスターセッション、3週目の最終日に行われるファイナルプレゼンテーションに向けて準備をしていくという少しハードな内容でしたが、楽しみながら過ごすことができました。また、1回生で参加したことで、日本の法制度さえもあいまいな部分、わからないことも多くありましたが、周りの方が助けてくださり、理解することができました。ポスターもプレゼンも授業で学んだことを生かし、うまくできたと思います。そして、自由行動の時には、先輩方とカフェに行ったり、エディンバラ市内の有名な観光地を訪れたりしました。なかでも印象に残っているのはエディンバラ城です。エディンバラ城は130m以上ある巨大な要塞で実際に見たときは、とても圧

倒されました。また、城内もすごく広大ですべて回るのに2時間以上かかりました。すごく足が痛くなりましたが、有名な建造物を見ることができ、貴重な経験になりました。そして、多くのカフェに行きました。おすすめは大学の近くにある「the world's end」です。そこで食べたフィッシュアンドチップスがおいしくて印象に残っています。エジンバラから少し離れたグラスゴーにも行きました。グラスゴー大学やグラスゴー大聖堂、ホストファザーが教えてくれたネクロポリスを訪れました。街の雰囲気はエジンバラと似ているような少し異なるような、不思議な雰囲気でした。

学び

この研修で私は積極的なコミュニケーションの大切さと人の温かさを学びました。上記したように1回生で参加したことで日本の法もわからないことがありましたが、それをしっかり先輩方に聞き、また、英語でわからないことがあったときに、ホストファザーや先生に積極的に聞くことを心掛けました。そのときに、彼らは決して笑ったりせず、親身になって教えてくれました。最初は、ネイティブの人と関わるのがとても不安でしたが、この研修を通して、日本の中では知りえることないことを知ることができ、積極的に会話をする事の重要性を感じることができました。また、紳士の国といわれているように、本当にジェントルな方が多かったです。多くの場所で「Thank you」が飛び交い、バスで席を譲るのも多く見かけました。私もこれから人に温かさをもって接しようと思いました。

最後に

最初はとても不安に思うことが多くありましたが、3週間があっという間に感じるほど、学びが多く貴重で充実した研修でした。この研修で学んだことをこれからの大学生活、社会人生活に活かしていきたいと思います。最後になりますが、受け入れてくださったエジンバラ大学の先生方、ホストファザー、事前研修など実施して下さった金沢大学の先生方、奨学生として支援して下さった末延財団様、いろいろなサポートをしてくれた家族、その他関わって下さった皆様に心から感謝を申し上げます。



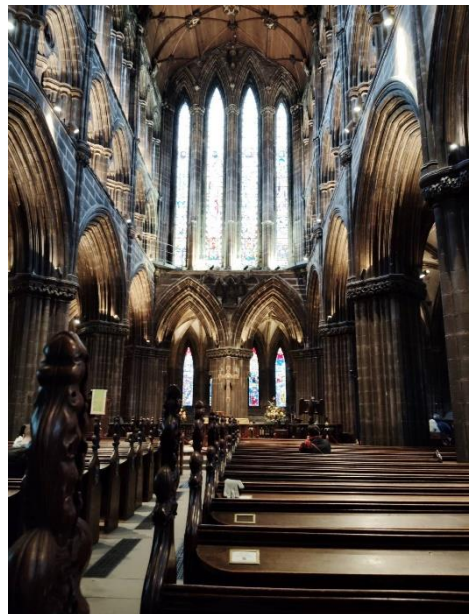
エジンバラ城



フィッシュアンドチップス



グラスゴー大学



グラスゴー大聖堂の中

エジンバラ大学法律英語研修 報告書

2 年

1. 事前準備

この研修に参加するにあたって、主に 3 つの準備があった。まず、東川先生による基礎演習の授業である。この授業では、金沢大学の留学生と、法律や政治をテーマとしたディスカッションを行った。なかなか英語を話す時間が取れない中で、この授業は大変役に立ったと感じる。次に、事前研修である。2 週間に 1 回程度、研修に参加する学生だけで集まり、プレゼンや会話練習を行った。この研修は、自分またはグループで、発表の準備をして、みんなの前で発表するというものであったが、エジンバラでの学習ではそういった場面が多く、この研修を通して、人前で英語を話すということに慣れることができてよかったと感じる。最後に、IELTS の受験である。この研修では IELTS の受験が必須で、5.0 以上のスコアが必要とされる。私は、受験がギリギリになってしまい、出発 2 か月前の 12 月に受験したが、研修に参加すると決めたら早めに受験することをお勧めしたい。TOEIC は何度か受験していたが、IELTS は初めてだったので、ライティングとスピーキングが心配であった。本屋などで売っている参考書で学習し、基礎演習の授業などで積極的に英語を話すよう心掛けた。以上が研修前の主な事前準備である。

2. 研修費用

この研修にかかった費用は、ざっと 100 万円というところだろうか。往復の航空券代で 30 万弱、授業料が約 60 万、そしてエジンバラでの生活や、ロンドンへの旅行に使ったお金が約 10 万であった。今年度は、末延財団により、30 万円の奨学金（給付）をいただき、費用面では負担が大きく軽減された。財団の皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。

3. 研修内容

エジンバラ大学での研修は、主に午前は授業、午後はアクティビティや最終プレゼンの準備であった。以下に第一週のスケジュールを掲載している。

Week 1

Session	9:00-10:50	11:10-13:00		14:00-15:30
Mon 17/02	Welcome Course Introduction and Orientation Tour of campus and local area	Speaking Strategies: Asking and Answering questions		City Bus Tour
Tues	The UK Legal System Lecture & Note-taking	Language of legal definition & explanation	Research Projects 1: Introduction	Walk in university Central area with mentor
Wed	The UK Legal Profession Roles of Solicitor, Barrister, Judge	Research Projects 2: Planning		Free
Thurs	The UK Legal Profession Training and Organisation	Academic Seminar Skills 1: Language & Practice		Project Preparation (Mentor)
Fri	The UK Legal System The Court System	Introduction to Poster Conference		National Museum of Scotland

午前の1コマ目はスコットランドの政治や法律、また語彙やアクセントについての学習、2コマ目は効果的なプレゼンやスライドについて学習した。授業は英語での聞き取りとグループディスカッションが主であり、授業の中でスピーキングの機会が多く与えられていた。午後はバスツアーやスコットランド議会の訪問などのアクティビティがあった。

4. 週末の楽しみ方

週末はホームステイ先でのご飯の用意がないので、朝から夜まで出かけることが多かった。第一週の土日にビクトリアストリートやエジンバラ城などを散策、第二週はロンドンに行くことができた。エジンバラの町並みは歴史的で美しく、観光客も多かった。エジンバラ城からは街を一望できた。第二週の土日に行ったロンドンは、念願のビッグベンやバッキンガム宮殿など、1日で主要な観光名所を回ることができた。自分たちで調べて飛行機やホテルを手配するのも、少し苦労したがいい経験になった。



5. ホームステイ

ホームステイと聞くと、心配だな、英語話せるかな、何か言われたらどうしよう、などと不安が浮かぶ方もいると思う。実際私も、ホームステイの心配事はたくさんあった。しかし、そんな不安が吹き飛ぶくらいホストファミリーは私を温かく受け入れてくれた。どんな時も私の意思を尊重してくれ、洗濯はどのくらいしたいか、嫌いな食べ物は何か、今日はどんなことをしたのか、何か困っていることはないかなど、本当に大切に私を迎え入れてくれているのが伝わってきて、嬉しかった。ホストマザー、ホストファザーとの毎日の会話は確実に英語力の向上に繋がったと思う。次に、ホームステイ先のご飯について、いくつか紹介していこうと思う。ただし、あくまでも私のホームステイ先の一例である。まず、朝ごはんはシリアルやトーストなど、いくつか用意されており自分で選んで食べるというスタイルであった。しかし研修後半は朝の時間が十分に取れなくなり、ホストマザーが、学校までのバスで食べられるようにと私にトーストを包んで渡してくれていた。夜ご飯は様々であったが、ワンプレートに野菜とメインディッシュが乗ったもの、ペネやカレーの日もあった。私のホストファミリーは割と色々な文化の食事を楽しんでいる方

達だったので、私がお土産として持って行ったお味噌汁が夜ごはんに登場する日もあった。



6. まとめ

私はこの研修まで海外に行ったことがなく、ましてや飛行機も初めてであった。しかし、一緒に行った金沢大学の友達、金沢大学の先生方、エジンバラ大学の人々、ホストファミリー、エジンバラやロンドンの人々など本当にたくさんのおかげで、3週間非常に充実した毎日過ごすことができた。また費用を負担してくれた両親と、奨学金を給付してくださった末延財団の方々に感謝したい。この研修で得たたくさんの知識、考え方を必ず生かしていけるよう、今後も目の前のことに一生懸命取り組んでいきたい。

エジンバラ大学法律英語研修を終えて

法学類2年

私は2月17日から3月7日の3週間、エジンバラ大学法律英語研修に参加しました。この3週間は多くの新しいことを経験でき、とても充実した時間でした。具体的な研修内容や経験について大きく4つに分けて書きたいと思います。また、この研修への参加を決断する際に末廷財団の奨学金の存在が私の背中を大きく押してくれました。このようなご支援をしていただいた末廷財団に感謝申し上げます。

【1】 基礎演習と事前研修

この研修に参加するにあたってQ3、Q4に開講される水曜日4限の東川先生の基礎演習と2～3週間に1度行われる事前研修に参加しなければいけません。事前研修は留学生と一緒に日本法を英語で学ぶという内容の授業です。留学生と日本人学生で4～5人のグループを作り、グループ内で議論する時間が多く取られています。留学生に対して日本の時事ニュースを英語で説明したり、現在の法制度に対する自分の意見を英語で説明しなければならず、初歩的な法律英語を学ぶことが出来ました。また、事前研修は日本の法制度に関するプレゼンを行いました。日本にいる時に英語で法制度に関するプレゼンを経験してエジンバラに行くことで最終プレゼンのハードルを下げる事が出来たと思います。

【2】 研修内容と授業形態

現地の授業はだいたい平日5日間、9:00から13:00まであります。スコットランドやイギリスの法制度や刑法、民法について学びました。大きな活動として2週目にイギリスの主要な判例のポスターセッション、3週目に20分程度のイギリスの法制度に関するプレゼンテーションを行いました。それぞれ2～3人でのペアワークでした。座学の授業は日本のように先生の一方方向の授業ではなく、学生の意見が多く求められる双方向の授業でした。難しい内容でしたが、言葉に詰まっても先生やメンター（エジンバラ大学の学生）が助けてくれるので力みすぎる必要はないと思います。午後に授業がある日は、スコットランド議会に見学に行ったり、裁判傍聴に行き、法制度の運用の現場を見ることが出来ます。教室で学んだことを自



↑スコットランド議会の議場

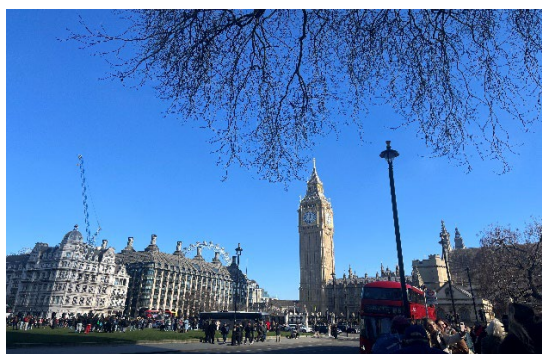
分の目で確かめることが出来る貴重な機会でした。また、メンターがエジンバラ大学のキャンパスを案内してくれたり、国立博物館やナショナルギャラリーを訪れるアクティビティもあります。

【3】 午後休の日と週末の過ごし方

午後に授業のない日は、エジンバラを観光しました。エジンバラは古い町並みが残っており、とても風情がある街なので、ただ街を散歩するだけでも楽しかったです。エジンバラ城を訪れたり、パブでお酒を飲んだりしました。また、夜はメンターが勧めしてくれた Ceilidh というスコットランドのダンスパーティーに参加しました。現地の人が踊り方を教えてくれるので、ダンスが苦手でも楽しむことが出来ます。スコットランドの伝統文化を体験できる場なのでぜひお勧めしたいです。1週目の週末は、バスツアーでネス湖に行ったり、スコットランドの大都市であるグラスゴーを訪れました。2週目の週末はロンドンに旅行にいきました。往路も復路も飛行機を利用しました（エジンバラからは1時間程度）。ロンドンは観光スポットが多く、予約が必要な場所も多いので事前に行く場所を決めておくと思います。



↑ ネス湖



↑ ロンドンの市街地

【4】 ホームステイ

私の出発前の1番の不安事はホームステイでしたが、その不安を忘れるほど快適に楽しく3週間を過ごすことが出来ました。ホストファミリーは子供が全員成人し、ご夫婦2人と犬1匹で暮らしているご家庭でした。2人もとても親切で、困ったことがあればすぐに助けてくれました。朝ごはんはセルフでシリアルやパンを食べる形式でしたが、夜ご飯は家族そろって食べました。この時間は英語を練習するよい時間でした。ホストマザーが作るご飯はどれもとても



↑ ホストマザー手作りのスコットランド伝統料理 haggis

おいしかったです。夜ご飯の後、ホストマザーは必ずお茶かコーヒーを入れてくれてお菓子を食べながらエジンバラのことをたくさん教えてくれました。英語が聞き取れないときは、そのことを伝えると他の言葉に言い換えてくれたり、ゆっくりはっきりと発音してくれるので会話を楽しむことが出来ました。エジンバラ大学側もホームステイの状況について定期的に確認してくれるので、ホームステイ先で何かあっても相談することが出来ます。

今回の研修を通してイギリス、スコットランドの法律を現地で学ぶという貴重な経験をすることが出来ました。普段、日本法しか勉強していない私にとって、外国法を学ぶことは日本法を新たな視点からみるという手段を得るきっかけとなりました。また、歴史の深いスコットランドという地で3週間生活することで肌身で外国の伝統文化に触れることが出来ました。外国法に興味のある方、海外で伝統文化を体験してみたい方、学生時代にしかできない貴重な経験をしたい方にはぜひこの研修に参加していただきたいです。



↑ エジンバラの街並み



↑ エジンバラ城

エディンバラ大学法律英語研修事後報告書

法学類二年

1, はじめに

私はこの研修を通して、母語でない言葉を介して海外の人々と授業や日常会話でコミュニケーションをとることの楽しさを実感し、また、日本と全く違う条件下で生きることの難しさを痛感した。しかし、総じて言えることは、この研修は私の大学生活の中で最も素晴らしい思い出の一つとなるだろうということである。

2, エディンバラ大学での授業

エディンバラ大学では、イギリスの法制度や政治についての授業と、プレゼンテーションの方法を学ぶ授業の2つを受けた。どちらの授業も教授が一方的に生徒に教えるだけの授業ではなく、授業内で出た疑問に対して生徒自身が考え、生徒の中で議論しあう能動的な学びの機会が多かったことが印象に残っている。右の写真のように議論がしやすいように机のレイアウトが向かい合っているのも特徴である。法制度や政治についての授業では、犯罪となる行為の類型や、判決を導き出すための道標となる基準など非常に多くの学びを得た。こちらの授業では課題がかなりの頻度で出され、英文の意味が分からず四苦八苦しながら友達と一緒に課題を何とか完成させた。また、教室内の授業だけではなく、教室を飛び出して議会や裁判所などを訪れたことも記憶に残っている。特に裁判所では実際の裁判の様子を見ることができ、日本の裁判とは参加している職業や、進行の仕方が異なっている部分が多いということも知った。



プレゼンテーションの授業では、イギリスの有名な判例をポスターにまとめて発表するものと、自分たちでテーマを選択してパワーポイントを用いて発表するもの、2つのプレゼンテーションの仕方について教授と、mentor というエディンバラ大学の我々を手助けしてくれる学生が、発音や語彙等基本的なところからプレゼンテーションの内容の方向性について客観的視点からのアドバイスに至るまで手厚いサポートをしてくださった。エディンバラ大学では教授と生徒の間の距離が近く、教授に気軽に質問できる雰囲気だったため、授業中に何度も質問して疑問を解消することもできた。

それぞれのプレゼンテーションの本番では発表して終わりというわけではなく、聴衆から質問が飛んでくる。特に、ポスターのプレゼンテーションの時は一緒に行った

日本人学生以外にも、まったく知らないエディンバラ大学の学生や教授がお越しになり、私のプレゼンテーションが終わるとかなり鋭い質問をされることがあった。非常に難解であり、解決が示されていない問いかけが多かったが、自身の意見をなんとか英語にして表現することが出来た。

Session	9:00-10:50	11:10-13:00		14:00-15:30
Mon 17/02	Welcome Course Introduction and Orientation Tour of campus and local area Paterson's Land M14	Speaking Strategies: Asking and Answering questions Paterson's Land M14		City Bus Tour
Tues 18/02	The UK Legal System Lecture & Note-taking Charteris Land 2.02	Language of legal definition & explanation	Research Projects 1: Introduction	Walk in university Central area with mentor
Wed 19/02	The UK Legal Profession Roles of Solicitor, Barrister, Judge Paterson's Land M14	Research Projects 2: Planning Paterson's Land M14		Free
Thurs 20/02	The UK Legal Profession Training and Organisation Outreach Centre B1.01	Academic Seminar Skills 1: Language & Practice Outreach Centre B1.01		Project Preparation (Mentor) OC B1.01
Fri 21/02	The UK Legal System The Court System Paterson's Land M14	Introduction to Poster Conference Paterson's Land M14		National Museum of Scotland

時間割の例

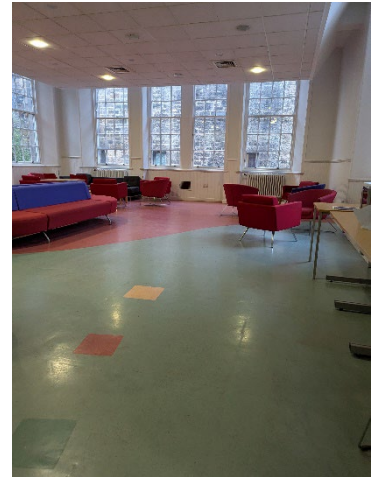
毎日9時に授業が始まり、13時に学校が終わる日、14時半までプレゼン資料を作る日などがあった。

3. 放課後

授業が終わると、mentorと一緒に市内の観光名所（スコットランド国立博物館、美術館など）を巡ったり、友達と共にスコットランド料理を食べに行ったり、運動不足解消のためにジムに行ったりと、かなり自由な時間を満喫した。特にエディンバラ大学生活が始まってすぐに訪れたエディンバラ城では、籠城戦の際の防御側の工夫や、戦争捕虜や奴隷などが入っていた牢獄、イギリス全体やスコットランドの歴史を学ぶことのできる資料館を訪れ、教科書で習った史実を現実を感じる事が出来た。また、私たちはエディンバラに到着した時に学校からバスや路面電車に乗り放題のパスをいただいていた。そのため、普通なら1時間かけて歩いていくような場所も10分程度の移動で済んだ。



一方で、大学内にはカフェがあり放課後に勉強するスペースも用意されていた。友人と私はそこで近くのTESCO（イギリスの大手スーパーマーケットチェーン）で軽い昼食を買ってからカフェで食べた後、そのままプレゼンテーションの作成やアンケートの質問内容を考える作業を進めることが多かった。特に最終週はプレゼンテーションの準備が非常に忙しく、頻繁に通って資料を完成させた。



4, ホームステイ

空港に着いて手続きを終えた先で、自分の名前の書かれた紙を持ちながら笑顔で出迎えてくれる人がいた。ホストファミリーの Annie だ。彼女は異国の地に着いてまだ慣れない私にたくさん質問を投げかけてくれたり、私の好きなスポーツの話で盛り上がった。私はその時、英語しか通じないということを痛感しつつも、自分が勉強してきた英語が本当に使えるということに感動した。家に着くと、ホストファザーの Phil があいさつしてくれ、その後一緒に夕食を食べた。今回の留学でホストファミリーは朝ごはんを晩ごはんを作ってくれたが、前情報で聞いていたよりずっとおいしいごはんが食べられて非常に嬉しかった。



その後、自分の部屋に案内されたが、部屋は非常にきれいで、勉強できる机やベッドのほかに自分用の TV をあてがわれ、NETFLIX やスポーツの試合などを観ることができた。このおかげで、学業で疲れた日には映画をみてリラックスしたり、学校からの課題を部屋の中で完成させたりすることが出来た。また、門限も特に決められておらず、SNS を通じて必ずこの時間までには帰るというようなメッセージを送ればいいと言われていたため、お土産を買ったり観光地を巡ったりして遅くなってしまう日でもゆっくり帰宅することが出来たし、その時も笑顔で出迎えてくれるホストファミリーには非常に感謝している。

5, 旅行

私はこの研修期間中にロンドンと、スコットランドの有名な都市、グラスゴーを訪れた。



ロンドンは観光名所が多く、世界中から訪れる観光客で賑わう活気あふれる都市だった。特に印象的だったのは、ビッグベンやタワーブリッジ、大英博物館。ビッグベンの荘厳な姿と、タワーブリッジの堂々たる構造は、歴史と現代が調和したロンドンの象徴のように感じられ、大英博物館では世界各地の文化財が展示されており、歴史の重みを肌で感じる事ができた。しかし、大都市ならではの良くない一面も目の当たりにした。観光地周辺では、関わってはいけないような雰囲気の人々を見かけることもあり、海外で旅行する際には安全面を必ず熟慮しなければならないことを実感した。



次に訪れたグラスゴーは、エディンバラとは対照的に非常に近代化された都市だった。街中には高層ビルが立ち並び、活気ある商業エリアが広がっており、滞在した日は偶然にもパレードが行われており、街全体が一層賑やかで活気に満ちていた。また、近代化都市の中にも伝統的な建物として非常に有名で素晴らしいものがあつた。グラスゴー大聖堂である。教会のステンドグラスは非常に美しく、色鮮やかな光が差し込む荘厳な空間に感動し、今回訪れた二都市の観光名所の中で最も印象に残っている。

6, 注意点

ここまで海外での楽しい側面のみを記してきたが、自身の経験をもとに「こういうところは注意しなければならない」というところを何点か紹介する。

まず、困ったことがあれば何でもホストファミリーか教授にすぐに連絡すべきであるということ。彼らはメッセージに返信する速度が段違いに速いので皆さんの質問にもすぐに反応して答えてくださるし、そもそも日本語が通じるのは一緒に行く日本人だけであるため、現地の情報に詳しい現地人を頼って損はないはずだ。

次に体調不良になってしまったら、遠慮せずに医者にかかることだ。私は体調不良になってしまったが、一日学校を休み熱が下がった段階で登校できると判断しすぐに学

校に復帰した。このために一週間近くも体調の悪い状態で海外生活を過ごすこととなってしまう。たしかに海外で医者にかかっても専門用語などを使われたり、自分の知らない薬を処方されたりなど非常に怖いと感じるだろう。しかしそのために大切な時間をつらい症状に苦しめられながら過ごすのはもったいない。怖いとは思いますが医者に行くことをお勧めする。

7, 最後に

今回の滞在中、英語のみの環境で生活することは非常に貴重な経験となった。周囲には日本語が通じる人はおらず、乏しい語彙力しかもっていない私が自分の伝えたいことを正確に伝える難しさを痛感し、英語力の重要性を再認識した。これからのグローバル化していく社会で生きる中で英語はやはり必須スキルとなってくると予想される。私は今回の悔しさを胸に、英語力の涵養にまた励みたいと思う。

今回留学に当たり必修であった基礎演習を担当し、事前研修でたくさんのご指導いただいた東川先生、引率いただいた田村先生、私個人では出来なかった留学資金の調達を援助して下さった末延財団の皆様、支えてくれた両親、エディンバラ大学の教授の皆様、並びにすべての関係者に心より感謝申し上げます。改めて、深く御礼申し上げ、結びとさせていただきます。

エジンバラ大学法律英語研修を終えて

人間社会学域法学類 2 年

1. はじめに

この研修への参加を決めたのは、春休みに暇を持て余して何もやらないよりは留学に挑戦してみようという限りなく不純に近い理由でした。ですが研修を終えた今になってはたとえ理由がどうであっても参加を決めた自分をすごく褒めてあげたいです。世界には“Fall in love with Edinburgh”という言葉があります。私も恋に落ちた一人になってしまったのでこのレポートを通じて少しでも魅力を伝えられたらと思います。



2. エジンバラでの生活



なんといってもまず一番魅力を感じたのは中世的な街並みです。エジンバラ城まで続く道であり、観光名所でもあるロイヤルマイルだけでなくエジンバラの街並み全体的に中世を連想させるような伝統的な街並みで大学への行き帰りだけでも観光している気分になれます。街角に何となくある教会も観光名所ではなく自然に街に溶け込んでいました。エジンバラの街並みが神秘的な美しさをしていることで町全体が観光名所であることを示すいい例であったと感じました。まるで中世にタイムスリップしたかのような気分が味わえる



るので本当に訪れるべきだと思いますし、もう一度訪れたいと強く思っています。

エジンバラでの生活は、午前中は大学で授業を受けて、午後は現地の学生と博物館や美術館に行ったり、自由時間の場合もありました。博物館などの施設は無料なので気軽に行けることができ、滞在中何度かお世話になりました。自由時間ではエジンバラの観光名所をたくさん回りました。エジンバラ城からは街並みを一望でき、城内が展示スペースになっているのでスコットランドの歴史について詳しく学ぶことができます。また、天気



の良かった日にアーサーズ・シートというエジンバラにある丘に登りました。頂上からの景色は忘れることができないほど素晴らしいものでしたが、断崖絶壁でかつ頂上付近で突風が吹いており、高所恐怖症の私は立っていることができませんでした。



しかし最も楽しかったことは、どの観光名所を回ることもよりもケイリー（Ceilidh）というスコットランドの伝統的なダンスパーティーです。伝統的な音楽に合わせて本当にたくさんの人たちとダンスを踊りました。踊り方は演奏しているおじさんが教えてくれて、よくわからなかったところはスコティッシュ紳士が教えてくれたので終始楽しく踊ることができました。私にダンスの才能があったのかはわかりませんが一つ言えることは、お酒を飲んで踊るので酔いがいつもより早く回ってしまうのに気を付けるべきだということです。

3. エジンバラ大学での授業

もちろん研修なので平日はしっかり授業がありました。9：00～11：00 ごろまでのコマと 11：00～13：00 ごろまでの計 2 コマの授業を毎日受けました。一時間目はスコットランドの法律制度について学びました。日本と違う英米法という法体系で司法制度がどのように違うのか知れて非常にいい勉強になりました。二時間目はコミュニケーションの授業でした。コミュニケーションと



いってもアカデミックなコミュニケーションについて学ぶことが多かったかと思います。質問されて考える時間が欲しいときの表現などの授業は私にとって非常に勉強になりました。どちらの授業も日本の講義のように一方通行のものではなく、先生方が投げかけてくる質問に対して生徒が答えていくといったように法学類の講義に慣れていた身としてはあまり授業という感じがせず、答えたことについて先生方もうれしそうに答えてくださるので楽しく学ぶことができました。

こなさなければならない大きなタスクとしてポスター作りとプレゼンテーションがありますが、どちらも先生方が非常に親身になって手伝ってくださるので特に問題なく終わることができました。個人的にこの研修で一番気持ちが落ち込んだことはプレゼンテーションの際の街頭インタビューでした。スコットランドの人たちは非常に愛想のいい人たちが多かったので、インタビューもたくさんの人が答えてくれるだろうと思っていたらほとんどの人に断られてしまい、当初目標にしていた人数に答えてもらう前に心が折れてしまいました。心が折れた私はエジンバラ市内を当てもなくうろつき帰り道が分からなくなる

という事態にも陥りましたが、精神面でも鍛えられる経験となりました。

4. 週末について



平日は大学の授業などが忙しく遠出をすることが難しいのですが、週末は時間があるのでイギリス国内の様々なところに遊びに行ることができます。私は週末を利用してロンドンやグラスゴーなどの都市を訪れました。私の感想ですが、エジンバラが伝統的で落ち着いた雰囲気 で日本の京都に近いとしたら、ロンドンは東京、グラスゴーは大阪といったようなイメージでした。ロンドンは教科書で見たことのある建物がたくさんあって楽しかったですし、グラスゴーはエジンバラ大学の先生に聞いたおすすめの観光地を回って楽し

かったです。一つ注意することを挙げるならば、ロンドンへは夜行バスを利用したのですが、予約したはずの座席に普通に知らない人が座っていて驚きました。

この研修で最もカルチャーショックを感じた出来事かもしれません。もしかしたら予約しなくてもそこまで変わらないか

もしれません。そして同じく驚いたことはロンドンやグラスゴーからエジンバラに戻った時に帰ってきたなとまるで故郷のように思えたことです。違う国のはずなのに帰ってきた、という気持ちになったことが非常に興味深かったことを覚えています。



5. ホームステイについて

間違いなくエジンバラを故郷のように思えた最も大きな要因として非常にフレンドリーなホストファミリーが挙げられるでしょう。私は老夫婦の家にお邪魔したのですが、英語の拙い私と非常に熱心にコミュニケーションをとってくれました。エジンバラ空港に到着した私を迎えてくれた瞬間から私にエジンバラ市内のことを教えてくれて、夕食の時間には今日あったことを話し合ったり、スコットランドの言葉や文化をたくさん教えてくれました。ホストマザーは料理が非常に得意な方で毎日おいしい夕食を作ってくれました。個人的に食事の面で非常にうれしかったことはイギリス（スコットランド）の伝統的な料理を作ってくれたことはもちろん、毎日朝晩紅茶を入れてくれたことです。紅茶が非常に好きな私は非常に優雅でリラックスした時間を楽しむことができました。ホームステイが初めてで緊張していたのですが非常に楽しい時間を過ごせました。



6. 最後に

この研修を通じて私はエジンバラという町のすばらしさを感じ、頭から離れなくなってしまいました。エジンバラは素晴らしい街並みと人の温かさを感じられる町でした。また、母国語の違う人たちとの会話は完璧な文章を話す必要はなく、ジェスチャーや表情などの言語外コミュニケーションが非常に大切になるということも実際に現地の人たちとの交流を通じて思いました。この研修に参加して私は、自分の価値観が大きく変わったと胸を張って言うことができます。それくらいこの研修は私にとって有意義なものでした。このような経験をさせてくださった先生方や両親、そして奨学金で経済的な援助をしてくださった末延財団の皆様にも感謝申し上げます。特に奨学金がなければ私はこの研修に参加することすら考えなかったと思います。ありがとうございました。またいつか絶対にエジンバラを訪れてもう一度恋に落ちたいです。



エジンバラ法律英語研修事後報告書

人間社会学域 法学類 3年

1,はじめに

2/17~3~7 までの 3 週間の期間でエジンバラ大学での研修に参加させていただきました。海外での生活というものに今まで関心のなかった私がこの 3 週間の経験を記します。海外に興味のない方や行ってみたいけど不安だと思っている人の手助けになればと思っています。

2,大学生活

最初にエジンバラ大学での生活について。エジンバラ大学での 1 コマは 110 分もあるのですごく長く感じてしまうかもしれませんが意外とそんなことはなく私の場合聞き取れるように集中して講義を聞かなければいけないので体感時間は短かったです。三週間のうち半分は 2 コマで終わるので午後からは自由時間や、みんなでの施設見学や課題の準備のための時間として利用していました。3 週間毎日のように朝早く起きて講義を受けに行くというのが高校時代に戻ったような感覚でなつかしさを感じました。朝が苦手な方もいらっしゃると思いますが夜遅くまで起きていなければいけないことはないのです。それほど朝起きるのが苦ではありませんし、さらに、生活習慣を整える良い機会にもなります。

海外に興味が薄い方の多くに当てはまるのが英語力の弱さにあると思います。実際私の英語力も決して高いものでもなく一緒に参加した人の中でも一番低いのではないかとすら思っていました。しかし、英語に自信がなくても大丈夫です。エジンバラ大学の先生方は非常に親切で、こちらの伝えたいことをしっかりと理解しようとしてくれます。片言の英語でも意外と伝わるものだと思える場面が多く、会話を通じて少しずつ自信がついていきました。確かに普段使わない言語を用いて会話をし、課題に取り組むのは非常に難しいことではありましたがとても挑戦しがいいのあるいい経験になったと思いますし来年度以降参加される方にとってもそうなるものと思います。

3,ホームステイ

人によっては大学の講義以上に不安が大きいのはホームステイかもしれません。全く知らない方と 3 週間共同生活を送らなければいけないことに加えて慣れ親しんでいるとは言えない文化圏の方と過ごすのです。不安がない人の方が珍しいと思います。私もとても不安でした。ですが、エジンバラ研修の参加の際にホームステイ先として家を提供して下さる方々に関してはそんな心配は不要です。杞憂だったなとエジンバラを訪れて 1 週間もせぬうちに感じました。私のホストファミリーはマザー、ファザー、3 人の子供たちの計 5 人家族でした。日本の実家のように過ごしてほしいと最初の方はたくさん言っていたのですがすぐに緊張も解けてラフに過ごすことができていました。また、大学の課題で分からないことはないかと聞いてくださって、手助けもしてくれたので大学の難しい課題

も何とかなっていました。ホストファミリーとの会話の時間は楽しい時間でもありリスニング力も鍛えられて非常に有意義な時間でした。また、食事に関してもレパトリーもたくさんあったので毎日の夕飯が楽しみで仕方なかったです。たぶんこれは私の家だけかもしれないが日本米を使った料理も提供していただきました。久しぶりの米だけでなく日本米を提供してくれたことも併せてとても感動しました。

ホテルで3週間過ごすのも確かにいいかもしれませんがホームステイだからこそ得られた経験があったと思いますし来年以降参加しようと思っている方々はホームステイも心配する必要はあまりないと思います。



4,観光

平日はゆっくり観光する時間がなかったので私たちは週末を利用してロンドンやグラスゴーの観光に行きました。観光に関してだけではないですが実際に行ってみるからこそ得られる感動の方が大きいと思うのであまり深く話そうとは思ってはいません。ただ、観光の話からは外れるかもしれませんがエジンバラだけではなくロンドンもそうですがご飯がおいしくないなんてことは決してないです。どれもこれもとてもおいしかったです。特にメインのプロジェクトを終えて食べたパイ。ドーム状のパイ生地の中にビーフシチューのようなものとしっかり赤ワインで漬け込んだのでしょうか、ワインの香りがよくしみこんだ牛肉が入っておりこの組み合わせが非常にあっていました。これが本当においしくてなかなか日本では見ないものなのでぜひとも食べてほしい一品でした。



(前述したパイ)

5,さいごに

この研修を終えて、英語力が劇的に向上したかと言われれば自信をもってイエスとは言えませんが、研修前からは成長できたと思います。また、海外に対してのイメージも一変

するぐらいには有意義な体験だったと思います。今回の研修は友人とではなく一人で参加することになってしまったこともありフライト直前まではとても不安でいっぱいでしたが現地の方のやさしさや、なにより行動を共にする時間が多かった研修参加者の皆さんのおかげで非常に楽しい研修になりました。たった3週間ではありましたが普通ならありえないほど濃い時間を共にしたことでとても仲良くなることができたと私自身は思っていますし、新しいコミュニティを築けたことが個人的には一番の財産になったと考えます。また、今回の研修は家族だけでなく末延財団様の多大な支援のおかげで参加させていただきました。心から感謝申し上げます。改めて周囲の助けを身近に感じる事が出来ました。最後にこの研修を通して海外には一度は行って見た方がいいなと実感できたので、海外に興味のない方は興味のある友人と一緒にしてみるべきです。また、海外に不安を抱いている人こそ逆にこういう研修の機会を利用して行ってみるべきだと思います。確実に色濃い経験を得られると思います。